

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 1 4 年 4 月 調査結果 —

(平成 1 4 年 5 月 2 日)

○調査期間：平成 1 4 年 4 月 1 8 日～2 4 日

○調査対象：全国の 3 9 8 商工会議所が 2 5 7 7 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 2 製造業 6 3 1 卸売業 2 3 1
小売業 7 3 9 サービス業 5 9 4

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4、7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成14年4月調査結果のポイント】

引き続き改善見られるも、景気底入れ感^{実感}は共有^{共有}できず、依然続く厳しい業況

- 4月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲54.4）よりマイナス幅が4.7ポイント縮小して▲49.7となり、2カ月連続してマイナス幅が縮小した。2カ月連続してマイナス幅が縮小したのは、平成12年8・9月以来1年7カ月ぶり。DI値の水準は、昨年6月以降、マイナス50ポイント台に低迷し、特に昨年12月から2月までは、平成10年12月以来のマイナス60ポイント台となっていたが、今月は、建設業を除く4産業で前月に引き続き悪化度合いが弱まり、11カ月ぶりに、マイナス40台となった。しかしながら、依然としてDI値の水準は低いうえ、公共事業の削減や企業間競争の激化による先行き不安感を訴える声が多く、地域経済や中小企業の足元の景況は底入れ感^{実感}を共有するには至らずに、いまだ楽観を許さない状況である。

建設業では、引き続き、公共工事の発注件数の減少や民間設備投資の低迷により、厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。公共事業については、「早期発注に期待する」（一般工事・塗装工事）声もあるが、「公共事業予算の減少」（土木工事・一般工事）により、発注量自体が減少し、「景気が底うちしても公共工事は増えない見込み」（建築工事）との指摘が多い。このため、「競争の激化は益々予想され、収益アップは見込めない」、「建設業者の格付けが進んでいる」（一般工事）など業者間の競争が激しさを増しており、先行きの不安感を訴える声が多い。民間工事についても、一部に「受注増」（建築工事・一般工事）の見方があるものの、「相当の安値でなければ受注できない」（電気工事）、「競合が激しく利益率が低下」（木造建築工事）と、過当競争の状況を憂う声が多い。

製造業では、一部に、「半導体関連が少しずつ動き出してきた」（金属素形材製品）、「在庫調整完了多く、電子部品関係がタイト」（電気機器製造）、「5月連休の出勤が組めるようになった」（電気機械）と前向きな指摘がある一方、「円安のために輸入価格上昇」（骨材・石工品、水産食料品製造）、や「得意先からの値引き要請により収益減」（暖房装置・配管、糖類製造）など採算の悪化を指摘する声が多い。また、「輸入品増加により国内の販売価格が抑制」（金物類製造）、「海外生産の増加によりコスト競争激化」（楽器製造・建具製造・ゴムプラスチック履物）など、海外生産の拡大に伴う影響をあげる声も寄せられており、長引く景気低迷に加え、こうした構造的な問題が、先行きへの不安感を増幅させる要因となっている。

卸売業では、「温暖化の影響で春の青果物の動きが早く出荷好調」（食料・飲料卸売）、「3月危機を脱し安堵感あり」（繊維品卸売）と、一部に明るい声も聞かれるが、引き続き、「中国商品に押され、単価面でたちうちできない」（衣料・日用品卸）、「価格の安い発泡酒への消費変化による売上の減少」（食料品・飲料卸売）、「住宅建設の低迷により実需に乏しい」（建築材料卸売）、「春先の高温から期間的にも短い春物がふるわず」（繊維品卸売）といった厳しい声が多く寄せられている。

小売業では、「生活雑貨の減少目立つ」（百貨店）、「衣料品、食料品、住居関連で客単価下落」（百貨店）、「家電リサイクル法施行以来、家電商品が減」（百貨店）、「衣料品の買い控えが見られる」（商店街）と、依然として消費減退を指摘する声が多い。4月上旬の気温の上昇がもたらした影響については、「初夏物の動きが好調」（各種商品小売）、「半袖、綿など初夏物衣料の動き活発」（百貨店）、「天候の影響で客足、売上とも増」（百貨店）との好意的な指摘がある一方、「春物先食いで不調」（商店街・各種商品小売）といった声や、その後の天候不順により「中旬以降商品の動きが鈍化」（百貨店）とのコメントも寄せられており、明暗まだら模様の状況と

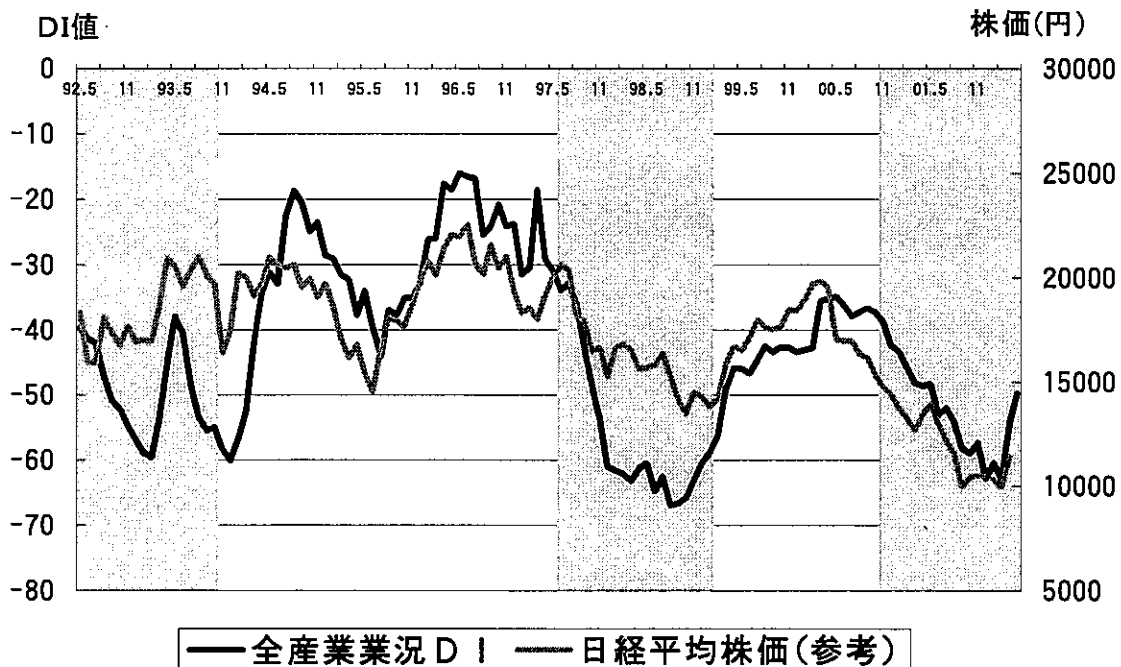
いえる。

サービス業では、「行楽シーズンに入り、期待」(旅館)、「公共工事の前倒し発注で土木建設車輛の需要増」(自動車整備)、「下げ止まり感あり、今後の売上増に期待」(飲食店)といった声が寄せられている一方、「歓送迎会の客数、客単価とも減少」(一般飲食店、酒場・ピアホール、旅館)、「食材の仕入れ価格が上昇し、採算に影響」(食堂・レストラン、一般飲食店)、「桜前線が早く、GW中のキャンセル相次ぐ」(旅館)など厳しい指摘も多数ある。また、大手チェーン等の進出により、「同業者間の競争の激化」(食堂・レストラン、美容、洗濯)を訴える声も多い。

売上面では、前月水準と比較し、建設業で4ポイント^{縮小}マイナス、小売業もわずかにマイナス^でとなったが、他の3業種ではマイナス幅が縮小し、全産業合計の売上DIは、▲45.2と、わずかながら~~ではあるが~~、前月よりもマイナス幅が縮小した。2カ月連続のマイナス幅の減少は、平成11年9月・10月以来、1年半ぶり。採算面でも、製造業、卸売業でわずかにマイナス幅が増加したものの、小売業を中心にマイナス幅が改善し、全産業合計の採算DIは、^{拡大}マイナス幅が2.9ポイント縮小して▲47.0となった。

- 向こう3ヵ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月ベース)が▲39.1と、昨年同時期の先行き見通し(▲41.7)と比べて若干上向いている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、公共事業の発注動向や、海外製品との競争、3月から4月上旬にかけての気温上昇による季節商品の動向などについての関心が高い。

《参考》過去10年間の全産業・業況DI値の推移



【業況についての判断】

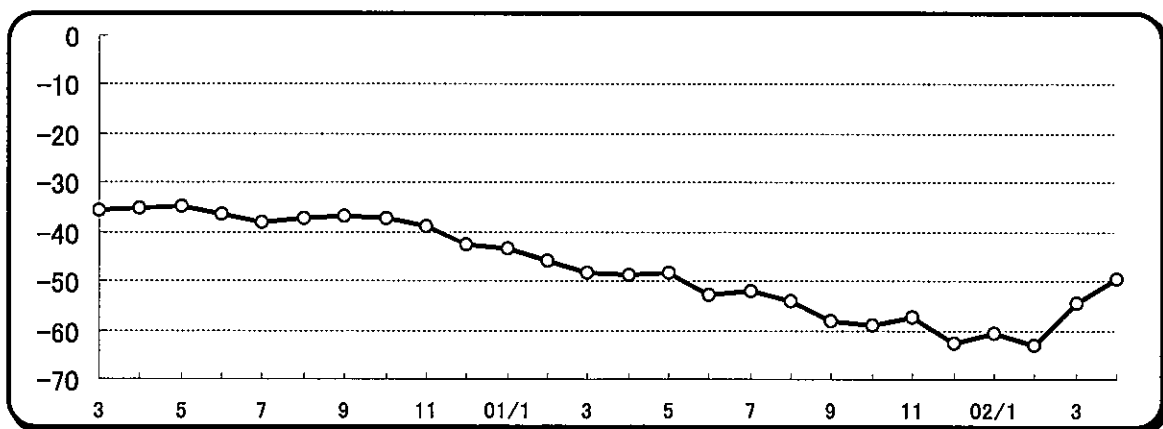
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲54.4）よりマイナス幅が4.7ポイント縮小して▲49.7となり、2カ月連続してマイナス幅が縮小した。2カ月連続してマイナス幅が縮小したのは、平成12年8・9月以来1年7カ月ぶり。DI値の水準は、昨年6月以降、マイナス50ポイント台に低迷し、特に昨年12月から2月までは、平成10年12月以来のマイナス60ポイント台となっていたが、今月は、建設業を除く4産業で前月に引き続き悪化度合いが弱まり、11カ月ぶりに、マイナス40台となった。
- 向こう3ヵ月（5月～7月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲39.1と、昨年同時期の先行き見通し（▲41.7）と比べて若干上向いている。

業況DI（前年同月比）の推移

	13年 11月	12月	14年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	▲ 57.3	▲ 62.8	▲ 60.4	▲ 63.1	▲ 54.4	▲ 49.7	▲ 39.1 (▲ 41.7)
建設	▲ 66.3	▲ 70.7	▲ 69.1	▲ 69.0	▲ 64.7	▲ 67.7	▲ 56.4 (▲ 55.2)
製造	▲ 64.9	▲ 69.9	▲ 64.4	▲ 65.1	▲ 59.0	▲ 53.6	▲ 40.0 (▲ 45.8)
卸売	▲ 66.5	▲ 70.2	▲ 68.2	▲ 70.9	▲ 62.8	▲ 58.4	▲ 40.3 (▲ 45.5)
小売	▲ 50.1	▲ 56.2	▲ 52.9	▲ 59.6	▲ 49.4	▲ 41.9	▲ 33.3 (▲ 37.4)
サービス	▲ 47.3	▲ 54.2	▲ 55.9	▲ 58.2	▲ 44.6	▲ 39.2	▲ 33.2 (▲ 31.3)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年4月の先行き見通しDI<以下同じ>

≪業況DI（全産業・前年同月比）の推移≫



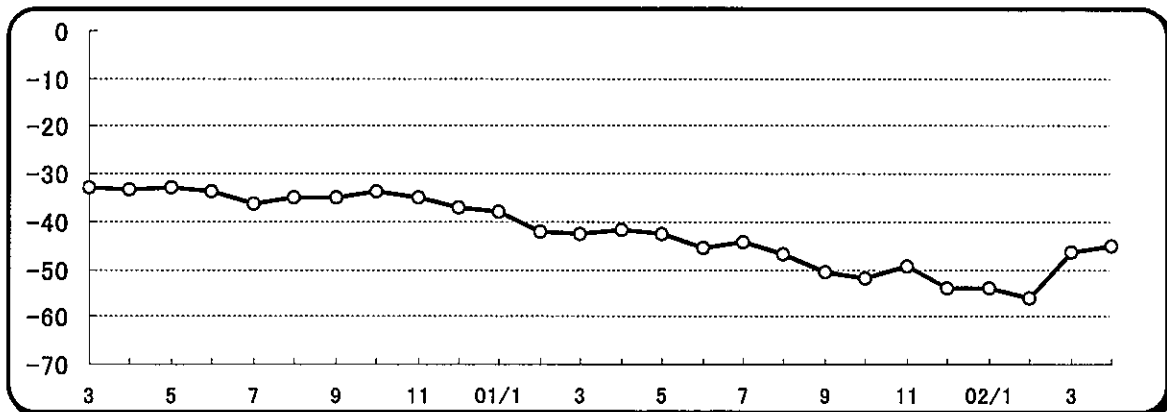
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 前月水準と比較し、建設業で^{4.6}ポイント~~マイナス~~、小売業もわずかにマイナスとなったが、他の3業種ではマイナス幅が縮小し、全産業合計の売上DIは、▲45.2と、わずかながら~~ではあるが~~、前月よりもマイナス幅が縮小した。(幅縮小)
- 向こう3ヵ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI(今月比ベース)が▲31.6と、昨年同時期の先行き見通し(▲35.4)に比べてやや~~好転する~~の見方となっている。
明るい

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	13年 11月	12月	14年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	▲ 49.4	▲ 53.9	▲ 53.9	▲ 56.0	▲ 46.5	▲ 45.2	▲ 31.6 (▲ 35.4)
建設	▲ 60.4	▲ 60.0	▲ 63.6	▲ 62.8	▲ 56.0	▲ 60.6	▲ 55.4 (▲ 47.8)
製造	▲ 54.6	▲ 60.0	▲ 59.6	▲ 60.6	▲ 52.3	▲ 48.6	▲ 31.5 (▲ 37.9)
卸売	▲ 59.4	▲ 57.0	▲ 63.1	▲ 62.3	▲ 58.3	▲ 56.5	▲ 27.5 (▲ 27.7)
小売	▲ 42.9	▲ 46.9	▲ 45.2	▲ 50.8	▲ 39.4	▲ 40.4	▲ 25.9 (▲ 36.6)
サービス	▲ 39.7	▲ 50.1	▲ 47.9	▲ 49.9	▲ 37.0	▲ 32.4	▲ 24.3 (▲ 24.8)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



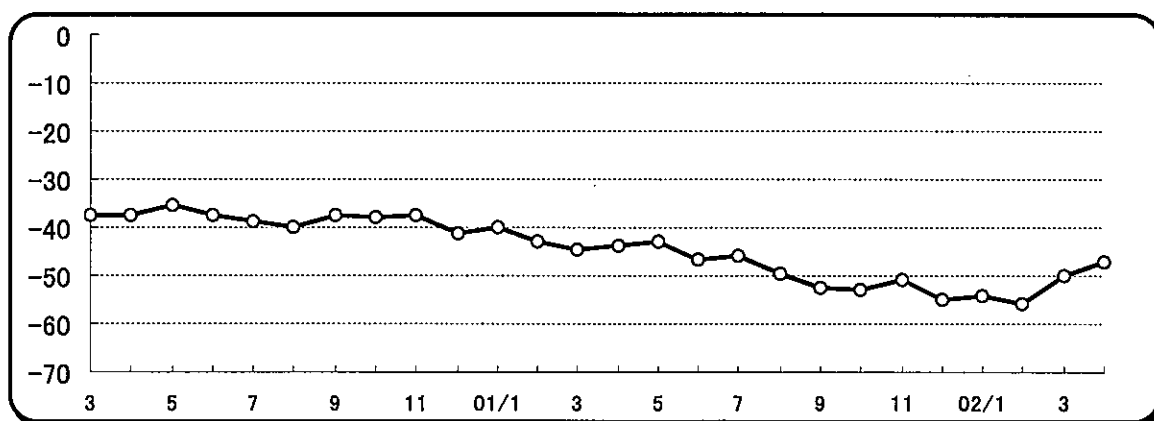
【採算の状況についての判断】

- 採算面でも、製造業、卸売業でわずかにマイナス幅が増加したものの、小売業を中心にマイナス幅が改善し、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が2.9ポイント縮小して▲47.0となった。
- 向こう3ヵ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲35.7で、昨年同時期の先行き見通し(▲36.4)と比べ、ほぼ横ばいとなっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	13年 11月	12月	14年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	▲ 50.8	▲ 55.2	▲ 54.0	▲ 55.9	▲ 49.9	▲ 47.0	▲ 35.7 (▲ 36.4)
建設	▲ 63.4	▲ 64.4	▲ 69.1	▲ 65.0	▲ 64.7	▲ 61.6	▲ 55.4 (▲ 51.8)
製造	▲ 59.6	▲ 63.5	▲ 60.4	▲ 61.3	▲ 54.2	▲ 55.8	▲ 40.7 (▲ 38.4)
卸売	▲ 51.6	▲ 57.6	▲ 57.3	▲ 61.6	▲ 53.2	▲ 54.0	▲ 33.8 (▲ 36.8)
小売	▲ 40.8	▲ 45.4	▲ 43.1	▲ 48.5	▲ 44.1	▲ 36.0	▲ 25.7 (▲ 33.7)
サービス	▲ 44.0	▲ 50.1	▲ 48.5	▲ 50.6	▲ 40.2	▲ 38.4	▲ 30.3 (▲ 26.0)

≪採算D I (全産業・前年同月比) の推移≫



(参考)

資金繰りDI (前年同月比) の推移

	13年 11月	12月	14年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	▲ 38.6	▲ 42.5	▲ 41.2	▲ 42.7	▲ 41.1	▲ 37.9	▲ 30.5 (▲ 27.5)
建設	▲ 47.7	▲ 53.2	▲ 45.7	▲ 49.3	▲ 49.3	▲ 50.9	▲ 45.6 (▲ 38.8)
製造	▲ 44.8	▲ 51.8	▲ 48.2	▲ 49.3	▲ 49.0	▲ 48.2	▲ 35.5 (▲ 28.3)
卸売	▲ 37.4	▲ 35.7	▲ 43.0	▲ 40.6	▲ 37.0	▲ 37.1	▲ 23.6 (▲ 24.1)
小売	▲ 29.1	▲ 34.3	▲ 32.3	▲ 37.4	▲ 32.4	▲ 25.1	▲ 22.1 (▲ 26.1)
サービス	▲ 35.1	▲ 34.1	▲ 37.7	▲ 36.0	▲ 36.6	▲ 30.0	▲ 27.6 (▲ 21.8)

$$DI = (\text{好転の回答割合}) - (\text{悪化の回答割合})$$

【前年同月比DI】建設業と卸売以外の3業種において悪化超感が弱まる。

【先行き見通しDI】卸売業と小売業は悪化超感弱まる。残り3業種は、昨年同時期に比べ悪化超感が強まる見通し。

仕入単価DI (前年同月比) の推移

	13年 11月	12月	14年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	4.9	5.1	3.7	2.1	3.2	0.9	▲ 0.3 (1.1)
建設	6.3	4.1	1.5	2.6	4.7	▲ 1.8	▲ 2.9 (0.4)
製造	0.7	1.4	▲ 3.1	▲ 5.0	▲ 2.2	▲ 5.5	▲ 6.6 (▲ 7.1)
卸売	12.3	18.7	14.7	11.3	13.5	9.4	5.0 (4.5)
小売	7.9	12.0	11.4	8.7	8.0	8.3	5.7 (10.1)
サービス	1.6	▲ 4.1	▲ 1.3	▲ 1.8	▲ 2.1	▲ 3.0	▲ 1.5 (▲ 2.1)

$$DI = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比DI】小売業を除く4業種で、下落超感が弱まる。

【先行き見通しDI】建設業、小売業を除く3業種で、昨年同時期に比べ下落超感が弱まる見通し。

強

従業員D I（前年同月比）の推移

	13年 11月	12月	14年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	▲ 16.8	▲ 19.2	▲ 19.3	▲ 19.4	▲ 18.6	▲ 17.6	▲ 14.9 (▲ 13.9)
建設	▲ 31.5	▲ 34.6	▲ 34.5	▲ 36.5	▲ 35.8	▲ 35.3	▲ 31.6 (▲ 27.7)
製造	▲ 26.2	▲ 30.7	▲ 30.2	▲ 27.7	▲ 26.8	▲ 26.4	▲ 21.2 (▲ 16.0)
卸売	▲ 18.7	▲ 19.2	▲ 24.2	▲ 21.9	▲ 21.8	▲ 21.1	▲ 16.3 (▲ 15.6)
小売	▲ 4.5	▲ 7.2	▲ 8.1	▲ 9.8	▲ 6.9	▲ 6.8	▲ 5.8 (▲ 10.3)
サービス	▲ 9.9	▲ 9.5	▲ 8.1	▲ 8.9	▲ 10.7	▲ 7.7	▲ 6.8 (▲ 4.7)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】わずかながらも、全ての業種で過剰超感が弱まる。

【先行き見通しD I】小売業を除く4業種で、昨年同時期に比べて過剰超感が強まる見通し。

【平成14年4月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

今月も、先行きの業況に関する不透明感や先行きへの不安に関する指摘が多く寄せられている。建設業からは、「公共投資が大きく減少する見込みから、前年割れの状況が続くことを予想」（焼津・土木工事）、「官公庁工事予算の削減で競争の激化が予想され、収益率増は見込めない」（岩国・一般工事）といった声が、製造業からは、「取引先の値引き要求が強く、採算割れになる」（赤穂・金属加工機械）「加工単価の低下が収益を圧迫している」（観音寺・輸送用機械）などの声が寄せられている。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「海外の安い商品に押され、価格面でたちうちできない」（櫃原・衣服・日用品卸）、「競合店との価格競争が激化」（美濃加茂・各種商品小売り、大分・百貨店）、「派遣料金の値下げ傾向続き、採算が悪化している」（長野・その他事業サービス）、「GWが近づくが、期待感は全くない」（館山・旅館）などの声が寄せられている。

○ 倒産・廃業

長引く景気低迷から、依然として、倒産や廃業についてのコメントが多く寄せられた。「相次ぐ破綻、倒産のあおりを受け、先行き暗い」（川崎・一般工事）、「同業大手で倒産が発生し、業界に影響」（函館・水産食料品製造）、「廃業が増え、非常に厳しい」（福山・旅館）、「老舗企業が倒産」（宇都宮・繊維品卸売、京都・その他サービス）、「地場の中核百貨店が閉店」（銚子・商店街）などの指摘が寄せられている。

○ 気温上昇

3月から4月上旬にかけて好天が続き、気温が高かったことから、「温暖な日が続き客足が多かった」（長井・商店街）、「昨年より気温が高く、衣料品の半袖の動向がよい」（柏崎・百貨店）、「気温の上昇に伴い、春物・初夏物の売上は順調に推移」（静岡・百貨店）、など、小売業を中心に、季節商品の売上増を指摘するコメントが多く寄せられた。また、「雪解けが早かったため、始動も早めの模様」（青森・木造建設工事）といった声も聞こえている。しかしながら、一方で、「春物衣料先食いで4月は厳しい」（銚子・各種商品小売）、「春物前倒しの反動で中旬以降商品の動きが鈍化」（柏・百貨店、横浜・百貨店）、「気温差が激しく、衣料品業界は対応に苦慮」（田辺・商店街）、という声に見られるように、消費回復への足取りは弱く、明暗まだら模様の様相を呈している。また、「桜前線早く、GWのキャンセル相次ぐ」（弘前・旅館）というように、春先の気温上昇が、かえって稼ぎ時に客足を遠のけてしまうという事態も見られている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
14年 2月	先行き不透明感	倒産・廃業	食品表示問題
3月	先行き不透明感	倒産・廃業	回復への期待感
4月	先行き不透明感	倒産・廃業	気温上昇

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	<p>業況・売上D Iのマイナス幅は、前月までの縮小傾向から反転し、前月水準に比べて拡大。採算D Iは、3カ月連続でマイナス幅が縮小。引き続き、公共工事の発注件数の減少や民間設備投資の低迷により、厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。公共事業については、「早期発注に期待する」（一般工事・塗装工事）声もあるが、「公共事業予算の減少」（土木工事・一般工事）により、発注量自体が減少し、「景気が底うちしても公共工事は増えない見込み」（建築工事）との指摘が多い。このため、「競争の激化は益々予想され、収益アップは見込めない」、「建設業者の格付持が進んでいる」（一般工事）など業者間の競争が激しさを増しており、先行きの不安感を訴える声が多い。民間工事についても、一部に「受注増」（建築工事・一般工事）の見方があるものの、「相当の安値でなければ受注できない」（電気工事）、「競合が激しく利益率が低下」（木造建築工事）と、過当競争を憂う声が多い。</p>
製 造	<p>業況・売上D Iは、2カ月連続でマイナス幅が縮小。採算D Iはマイナス幅が拡大。一部に、「半導体関連が少しずつ動き出してきた」（金属素形材製品）、「在庫調整完了多く、電子部品関係がタイト」（電気機器製造）、「5月連休の出勤が組めるようになった」（電気機械）と前向きな指摘がある一方、「円安のために輸入価格上昇」（骨材・石工品、水産食料品製造）、や「得意先からの値引き要請により収益減」（暖房装置・配管、糖類製造）など採算の悪化を指摘する声が多い。また、「輸入品増加により国内の販売価格が抑制」（金物類製造）、「海外生産の増加によりコスト競争激化」（楽器製造・建具製造・ゴムプラスチック履物）など、海外生産の拡大に伴う影響をあげる声も寄せられており、こうした構造的な問題が、先行きへの不安感を増幅させる要因となっている。</p>
卸 売	<p>業況D Iは2カ月連続、売上D Iは3カ月連続でマイナス幅が縮小。採算D Iはわずかながらもマイナス幅が拡大。「温暖化の影響で春の青果物の動きが早く出荷好調」（食料・飲料卸売）、「3月危機を脱し安堵感あり」（繊維品卸売）と、一部に明るい声も聞かれるが、引き続き、「中国商品に押され、単価面でたちうちできない」（衣料・日用品卸）、「価格の安い発泡酒への消費変化による売上の減少」（食料品・飲料卸売）、「住宅建設の低迷により実需に乏しい」（建築材料卸売）、「春先の高温から期間的にも短い春物がふるわず」（繊維品卸売）といった厳しい声が多く寄せられている。</p>
小 売	<p>業況・採算D Iはいずれも2カ月連続でマイナス幅縮小。売上D Iは、わずかながらマイナス幅拡大。「生活雑貨の減少目立つ」（百貨店）、「衣料品、食料品、住居関連で客単価下落」（百貨店）、「家電リサイクル法施行以来、家電商品が減」（百貨店）、「衣料品の買い控えが見られる」（商店街）と、依然として消費減退を指摘する声が多い。4月上旬の気温の上昇がもたらした影響については、「初夏物の動きが好調」（各種商品小売）、「半袖、綿など初夏物衣料の動き活発」（百貨店）、「天候の影響で客足、売上とも増」（百貨店）との好意的な指摘がある一方、「春物先食いで不調」（商店街・各種商品小売）といった声や、その後の天候不順により「中旬以降商品の動きが鈍化」（百貨店）とのコメントも寄せられており、明暗まだら模様の状況といえる。</p>
サービス	<p>業況・売上・採算D Iとも、前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「行楽シーズンに入り、期待」（旅館）、「公共工事の前倒し発注で土木建設車輛の需要増」（自動車整備）、「下げ止まり感あり、今後の売上増に期待」（飲食店）といった声が寄せられる一方、「歓送迎会の客数、客単価とも減少」（一般飲食店、酒場・ビアホール、旅館）、「食材の仕入れ価格が上昇し、採算に影響」（食堂・レストラン、一般飲食店）、「桜前線が早く、GW中のキャンセル相次ぐ」（旅館）など厳しい指摘も多数ある。また、大手チェーン等の進出により、「同業者間の競争の激化」（食堂・レストラン、美容、洗濯）を訴える声も多い。</p>

発注に際し、

並列

2ヵ月連続で

(参考)

【ブロック別概況】

- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）をみると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。前月、平成12年3月以来2年ぶりに、全ブロックにおいて、前月水準に比べてマイナス幅が縮小したが、今月は、北海道と中国で再びマイナス幅が拡大した。
- ブロック別の向こう3ヵ月（5月～7月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。また、北海道と四国を除く7ブロックで、昨年同時期の先行き見通しに比べ、若干明るい見方となっている。 6

、東北

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

	13年 11月	12月	14年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全 国	▲ 57.3	▲ 62.8	▲ 60.4	▲ 63.1	▲ 54.4	▲ 49.7	▲ 39.1 (▲ 41.7)
北海道	▲ 42.9	▲ 44.3	▲ 52.0	▲ 48.1	▲ 34.6	▲ 41.8	▲ 38.2 (▲ 30.9)
東 北	▲ 63.4	▲ 66.0	▲ 65.7	▲ 67.6	▲ 65.7	▲ 59.2	▲ 47.9 (▲ 39.3)
北陸信越	▲ 50.6	▲ 61.5	▲ 63.8	▲ 65.4	▲ 54.9	▲ 50.0	▲ 33.2 (▲ 40.6)
関 東	▲ 52.3	▲ 59.5	▲ 58.5	▲ 55.9	▲ 48.8	▲ 44.5	▲ 34.5 (▲ 34.6)
東 海	▲ 55.3	▲ 67.8	▲ 63.4	▲ 69.0	▲ 62.6	▲ 48.9	▲ 41.9 (▲ 45.1)
近 畿	▲ 68.7	▲ 68.8	▲ 66.7	▲ 71.4	▲ 66.7	▲ 54.9	▲ 41.3 (▲ 54.3)
中 国	▲ 62.7	▲ 68.2	▲ 57.5	▲ 65.3	▲ 52.7	▲ 58.1	▲ 37.3 (▲ 47.1)
四 国	▲ 63.5	▲ 67.9	▲ 58.3	▲ 70.2	▲ 61.1	▲ 53.9	▲ 50.4 (▲ 47.8)
九 州	▲ 58.0	▲ 62.4	▲ 54.5	▲ 60.5	▲ 44.2	▲ 42.7	▲ 37.6 (▲ 41.5)